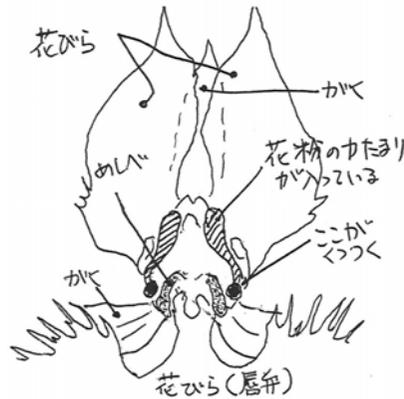


# サギソウ

\_\_\_月\_\_\_日 なまえ\_\_\_\_\_



## サギソウの花のしくみ

サギソウを含むランのなかまは、めしべとおしべが一体化して「蕊中（ずいちゅう）」を作っています。花粉はねばねばする小さな袋に入ったひとかたまりで、それぞれの種類ごとに、蜜を吸う特定の虫にくっついて別の花に運ばれるしくみ。サギソウのなかまでは、このねばねばが花粉袋から外に出て、たいへんくっつきやすくなっているのが特徴です。

★うまく<sup>かふん</sup>花粉がくっつくと、花のつけねの「<sup>しぼう</sup>子房」がふくらんで<sup>み</sup>実になります。茶色っぽくなった花の後ろで、ふくらみかけている実をさがしてみましよう。

☆物知りクイズ サギソウのたねの大きさは？

- ①7~8mm    ②2~3mm    ③0.5~0.7mm

★サギソウの名前のもとになった「<sup>しらさぎ</sup>白鷺」をさがそう。

「白鷺」は1種類の鳥ではなく、ダイサギ、チュウサギ、コサギなど白いサギの総称。動物園の「バードホール」で飼っているコサギ、あちこちの池にやってくるダイサギが見られます。植物園の奥池などによくいるグレーの鳥はアオサギ。

☆物知りクイズ 次のうち実在しない植物は？

- ①トンボソウ    ②コオロギソウ    ③スズムシソウ

見られる場所：<sup>しっちえん</sup>湿地園（<sup>がっしょうづく</sup>合掌造りの家向かい側）  
見られる時期：8月（7月から咲き始める年もある）

「<sup>さきそう</sup>鷺草」・・・<sup>ま</sup>舞い飛ぶ<sup>と</sup>白鷺<sup>しらさぎ</sup>に例えられる<sup>せんさいゆうび</sup>繊細優美なサギソウは、ランのなかま<sup>とくちょう</sup>。特徴のある花のかたちや、その<sup>かんさつ</sup>しくみを観察しましよう。

- ★まず花のかたちをよく見てスケッチしましよう。
- ★白い「花びら」と緑色の「がく」はそれぞれ何枚あるで



しょうか？（花をちぎったり壊したりしないように観察してね）

羽を広げたサギの姿をしているのは、全体が「唇弁（しんべん）」という1枚の花びら。その上に、両手で何かを包むようなかたちの小さな2枚の花びらがあります。「がく」はそれぞれの上に1枚ずつ。

★「花のかたちのスケッチ」では多くの方は正面から見た形を描かれたと思います。では、花を横から見てみましょう。あれ？後ろにびよ〜んとシッポみみたいなものが。これはいったい何でしょう？

（ヒント）光に透かすように見て下さい。細長い袋の底に何か液体がたまっていますか。

★これは唇弁の一部が変化して袋状になったもので、「距（きょ）」と呼びます。この袋の入り口はどこにあるのでしょうか？唇弁をよく見ると穴がありますよ。

★距の底に蜜がたまっているのは、もちろん虫を呼ぶため。さて、どんな虫がこの細長い蜜つぼから蜜をなめられるのかな？

★花が虫を呼ぶのは、花粉を運んでもらって、たねを作るため。それでは、その花粉を出す「おしべ」と花粉を受け取る「めしべ」はどこにあるのかな？唇弁の上、小さい2



枚の花びらにはさまれたあたりに注目して。  
注意 観察するときは、帽子をかぶったり、ときどき日陰に入りましょう。また、観察用の木道は、せまくて行き違いができないので、譲り合ってください。サギソウは木道から右の階段を上った上のほうでも観察できます。